

能登で震度6強

1人死亡 けがが100人超

M 6.9 倒壊多数 余震続く



地震で倒壊した家屋（25日午後1時38分、石川県輪島市門前町で）一佐々木紀明撮影



25日午前9時42分ごろ、能登半島沖（輪島市の南西約30キロ）を震源とする地震があり、石川県輪島市と七尾市、穴水町で震度6強、同県能登町、志賀町、中能登町で震度6弱を観測した。珠洲市で震度5強、富山県射水市や富山市などで震度5弱を観測したほか、北陸から東海、近畿などの広い範囲で震度3以上の揺れを記録した。この地震で、輪島市内で倒壊した灯籠の下敷きになった女性1人が死亡。同市内で100人以上が全半壊するなどし、読売新聞のまとめ（午後2時現在）では、石川、富山両県で少なくとも117人が重軽傷を負った。

気象庁によると、震源の深さは約11キロ、マグニチュードは6.9と推定される。余震も続いており、午後1時までに7回の有感地震を記録した。政府は午前9時45分に官邸対策室を設置し、清手防災相らを現地へ派遣、防衛省も災害対策室を設置するなど、被害状況の把握に当たっている。

交通機関にも影響が出ており、全日空によると、能登空港が滑走路などの点検のため閉鎖した。JR西日本と東日本によると、北陸線の敦賀―直江津間など北陸地方の多くの路線が運転を見合わせており、復旧までにかかりの時間がかかる見通しだ。

北陸電力によると、地震発生直後に能登方面で3万5000戸が停電。ほとんどは復旧したが、午後1時現在、七尾市で約140世帯、穴水町で約200世帯の停電が続いている。また、同町では約200世帯が断水になっていて、町は航空自衛隊小松基地に給水車を緊急要請した。

能登で震度6強 M6.9

1人死亡、175人重軽傷

二十五日午前四時五十分ごろ、能登半島中津川町で震度6強の地震が発生。震源地は能登半島中津川町で、震源の深さは約二キロ。地震の規模はマグニチュード(M)6.9と推定された。

県内過去最大の地震



激しい揺れで倒壊した商店 —25日午後4時半、輪南市門前町道下

余震が相次ぎ、被害が拡大している。能登半島中津川町で震度6強の地震が発生。震源地は能登半島中津川町で、震源の深さは約二キロ。地震の規模はマグニチュード(M)6.9と推定された。

301棟全半壊、2497人避難



災害救助法を適用

震が26年ぶり。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

激甚災害指定を検討

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

11万戸が停電

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。



宮崎県代表者

余震続出

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

11万戸が停電

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

激甚災害指定を検討

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

災害救助法を適用

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

11万戸が停電

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

激甚災害指定を検討

被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。被災者への支援が急務。

「死ぬかと思った」

能登で震度6強

がれきの山住民ぼう然

「この先どうすれば…」

本社記者・被災地ルポ



震害に遭むる道路に巨岩が転落し、津波地区「友美」が孤立した一日は午後8時、輪島市門前町野

能登半島の北端、津波と地震の連続襲撃を受けた能登半島の被災地。被災者らは「死ぬかと思った」と語り、今後の生活に不安を抱えている。被災地ルポ記者の取材によると、被災者は「この先どうすれば…」と悩んでいる。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。

休日の朝恐怖の激震

響くサイレン 中心街、無残

輪島・門前



屋根が落ち、完全に倒壊した民家。一日は午後4時半、輪島市門前町野

休日の朝、能登半島の被災地に激震が襲った。サイレンが響き、中心街は無残な姿を現した。被災者は、恐怖のあまりに逃げ出し、家財道具を失った。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。

50以上のすき問 生死分ける

全壊家屋から生還 被災者救済
被災者は、今後の生活に不安を抱えている。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。

「積の水漏る」

被災者は、今後の生活に不安を抱えている。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。

「死ぬかと思った」

被災者は、今後の生活に不安を抱えている。被災地では、道路が寸断され、孤立した地域も出てきた。被災者は、今後の生活に不安を抱えている。

家、道崩れ 水もなし



設立した仮設で避難し、避難場所に移された、輪島市門前地区の住民
一日に三回行われる、輪島市門前地区



仮設の避難所にもいりすに避難しあう住民
一日に三回行われる、輪島市門前地区

10人避難、漁船も使う

輪島市門前地区の住民は、地震発生後、避難場所に移された。一日に三回行われる、輪島市門前地区

続く余震 眠れぬ夜

輪島・門前

地震発生後、輪島市門前地区の住民は、避難場所に移された。一日に三回行われる、輪島市門前地区

地震発生後、輪島市門前地区の住民は、避難場所に移された。一日に三回行われる、輪島市門前地区

地震発生後、輪島市門前地区の住民は、避難場所に移された。一日に三回行われる、輪島市門前地区

能登空港

能登空港の再開が、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

盛り土の「弱点」突かれ



盛り土の「弱点」突かれ、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

能登有料道

能登有料道の再開が、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

北陸線は 運転再開

北陸線の運転再開が、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

北陸線の運転再開が、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

1万3250戸断水

断水の被害が、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

電話、携帯つながりにくく

電話、携帯につながりにくく、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

電話、携帯につながりにくく、被災者の生活に大きな影響を及ぼす。一日に三回行われる、輪島市門前地区

七尾、輪島で震度6強



七尾市で倒壊した家屋の瓦が散らばる様子。2019年3月26日撮影。写真：NHK

1人死亡、189人けが M6.9 全壊58棟、半壊117棟

【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。

【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。



【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。

門前・走出 震度7に迫る揺れ

【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。

【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。

【北陸】北陸地方を震源とする地震が26日午後11時11分、最大震度6強を記録し、死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。震源地は石川県七尾市沖で、震源の深さは約10キロメートルと推定されている。震害は石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも広がった。石川県では、七尾市や輪島市、穴水町などで、多くの家屋が倒壊や半壊した。また、道路や鉄道にも被害が出た。死者は、石川県七尾市で発生した火災による犠牲者1人。けが者は、石川県を中心に、福井県や岐阜県、長野県にも発生した。全壊は58棟、半壊は117棟。死者1人、けが者189人、全壊58棟、半壊117棟の被害が出た。

町並み無残「地獄や」

能登半島沖地震

高齢者ら2500人避難

輪島市 過疎の町ぼう然

【石川】能登半島沖地震で被災した、作樂町の輪島市。二十七日午後五時、能登半島沖地震発生後、避難所を開設した。避難所には、高齢者ら約二千五百人が避難している。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。



能登半島沖地震発生後、作樂町の輪島市。二十七日午後五時、能登半島沖地震発生後、避難所を開設した。避難所には、高齢者ら約二千五百人が避難している。

被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。

「生き残り」の人生

日本書 生き埋めの小西さん

被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。

続く余震募る不安

避難所の夜、励まし合う住民

避難所の夜、励まし合う住民



避難所で不安な夜を過ごす住民たち。二十七日午後五時、能登半島沖地震発生後、避難所を開設した。避難所には、高齢者ら約二千五百人が避難している。



九郎一（左）を前に小西さん（右）と避難所。二十七日午後五時、能登半島沖地震発生後、避難所を開設した。避難所には、高齢者ら約二千五百人が避難している。

被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。

被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。被災した町並みは、壊滅的な被害を受けた。



余震を警戒しながら進められる瓦礫の撤去作業
—26日午後2時、輪島市門前町道下

能登半島地震

県内負傷者200人超す

229回余震続く

震度5弱含む 1915人が避難生活

石川県能登地方で震度8強を観測した地震について、気象庁は二十六日平成十九年二〇〇七年能登半島地震と命名した。二十七日午前一時までに震度8弱を含む有感地震が二百二十九回発生し、被災地は余震を警戒しながらの復旧作業を強いられた。能登空港やJR七尾線が復旧したが、道路は依然、十二路線十七カ所で寸断され五千六百十世帯が断水したままで、千九百十五人の避難生活が続いている。輪島市は同日、仮設住宅設置の方針を決めた。

輪島市 仮設住宅設置へ

金沢地方気象台による町などで震度4、午後二時三十分は石川、富山、新潟の町など、二十六日午前七時十分四十六分ごろに能登町三浦で死者一人、重軽傷者二人、重軽傷者二百十四人になった。六分ごろに七尾市田鶴沢で震度5弱、午後六時二十分ごろに輪島市門前町で震度5弱を観測する。消防防災課の同日午後八時現在のまとめによると、県内の被害は死者一人、重軽傷者二百一人、孤立した仮設住宅が解消された。同市内の十三公立保育園は二十七日に予定していた修式を延期する。能登有料道路の輪田・徳田大津間は週内に、徳田大津以北は五月初旬までの仮復旧を目指している。能登空港はほぼ全線修理事務が終わり、羽田便は全線通常通り運航した。JR七尾線はほぼ通常通り運行した。のと鉄道は復旧に一週間ほどかかる見込みのため、バス代行運転を実施した。



経路消防防庁の同日午後八時現在のまとめによると、能登半島地震の被災者

仮設住宅 まず80戸

雨漏りを防ぐため、屋根にシートを張る住民
一ツ日午後3時、輪島市門前町道下

能登半島地震

輪島60、穴水20

県など、きょう 設置に20—30日

石川県と被災した輪島市、穴水町は二十七日、仮設住宅の第一段階として輪島に六十戸、穴水に二十戸を設置する方針を決めた。県などは二十八日も場所などを正式決定し、準備を始める。県によると、設置には二十—三十日間かかる。二十七日開かれた被災者対策本部の会議で報告された。



被災地は、穴水町では大町の約五割、穴水町門前町では約四割、穴水町門前町に各一カ所設置する方針で、雨漏りの被害を急いでいる。

雨、余震警戒続く

能登に1681人避難、1806世帯断水

能登に1681人避難、1806世帯断水。被災地では、雨漏りや余震の警戒が続いている。被災者対策本部は、仮設住宅の設置を進めるとともに、被災者の生活支援にも取り組んでいる。

県民に見舞金支給

天皇、皇后両陛下は二十七日、石川県に被災者見舞金を贈られた。被災者への支援と励みを与えるためとされている。

水電、ガスなどのインフラ

被災地では、水電やガスなどのインフラが一部停止している。被災者対策本部は、インフラの復旧を進めるとともに、被災者の生活支援にも取り組んでいる。

仮設住宅の設置

仮設住宅の設置は、被災者の生活支援に重要な役割を果たしている。被災者対策本部は、仮設住宅の設置を進めるとともに、被災者の生活支援にも取り組んでいる。

被災者の生活支援

被災者の生活支援は、被災者対策本部の重要な役割の一つである。被災者対策本部は、被災者の生活支援を進めるとともに、被災者の生活支援にも取り組んでいる。

被災者の県税減免

能登半島地震 県が特例措置

石川県は二十八日、能登半島地震の被災者に対し、県税の減免や納付期限の延長、徴収猶予などの特例措置を実施することを決めた。住宅や店舗、財産の被害状況などの申請に応じて減額額が決まる。

納付延長や徴収を猶予

期限の延長は、今年二、三の納付所得税、自動車税、十五日前に申告・納付（二〇〇六年年度課税分）、「納入」などの期限が、個人県税を対象に行われる。また、納付猶予も、申請し、認められれば、納付期限が延長される。被災者が所得に充てて納付した場合は、二十一年間の軽減措置が受ける。二十一年間の軽減措置が受ける。二十一年間の軽減措置が受ける。



避難所の近くに集められた家財道具など大量のゴミ。28日午後一時、大津波の被災者専用避難所、輪島市内町町事。

能登有料道

柳甲―徳田大津きょう復旧

引き続き地盤緩み落石多発

通行止めの能登有料道、柳甲―徳田大津間は四月二十日、柳甲―穴水間は四月二十一日、穴水―徳田間は四月二十一日の順で復旧を完了する。通行止めの能登有料道、柳甲―徳田大津間は四月二十日、柳甲―穴水間は四月二十一日、穴水―徳田間は四月二十一日の順で復旧を完了する。

すべての納付が対象で、被災証明書を添えて申請すれば、一時に納税することができないと認められる額を前年度に一年間徴収が猶予される。

新たな特例措置に要請を検討

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

仮設住宅は100戸

復興願う心ひとつ

能登半島地震1週間

能登島大橋あす再開

最大震度5強を記録し石川県輪島市を含む能登半島地震は三十一日、発生から一週間が経過した。中能登島橋、ツインブリッジの二は同日朝に重層制限と歩道通行止めが解除され、復旧は一カ月程度先とみられた能登島大橋は、四月二日から徐行で通行できる見通しだ。計三十二戸の建設を白濁す仮設住宅は輪島市門前町下などで着工された。一部を除き四月末の完成を目指す。■関連の地震関連

三十一日は前橋の通過に伴い能登半島に一時大規模な被害が発表されるなど、強い雨に夏雑草が、輪島市で新たに避難勧告が出された。

避難住民は千四百二十九人（避難勧告千三百八十八人、自主避難千七百六十八人）に上る。

支援1300人被災地に笑顔



親類やボランティア等の協力を得て、倒壊した範囲の荷物を片づける住民たち=31日午後、石川県輪島市門前町で（水口慎子撮影）

広がる人の輪と笑顔。震災後初めての週末を迎えた石川県能登地方各地には三十一日、約千三百人のボランティアが入った。被害の大きかった輪島市門前町でも、小学生からお年寄りまで若男女がそれぞれのできることに取り組んだ。疲れと不安が住民を襲う一方で、復興を願う人々の営みは善美に歩みを進めている。

被災家屋の片づけに向かうボランティアを運ぶバス車内。「自動販売機、見えますか？ あそこです」。道案内役を務める門前町二年の長橋啓（かき）さん（左）と、ボランティアの代表者として参加した高橋（たか）さん（右）が運転手に声をかけた。同県七尾市から派遣された運転手は「国道は分かるけど細かい道はちょっと。地元の人

睡眠2時間でも充実

「助かる」と感謝している。被災者の自宅は倒壊を免れたものの、壁にひびが入り、家具も倒れた。片づけが一泊した二十六日、ボランティアに賛辞。以降は自宅に帰らず、日中は道案内、夜は避難所でお年寄りのトイレに付き添ったり物資を運んだりする生活を送る。一日の睡眠時間は二時間前後。「体力には自信があるので疲れは感じない。毎日、とても充実しています」と目を輝かせる。同高二年の木澤美里さん（こ）は同級生の二人とともにボランティアの受け付けを手伝い、初々しい笑顔で道を和ませている。「いろいろな人と話せて楽しい。みんな自分町の復興のために出てきてほしい」と同世代に呼びかける。

門前町下地区の岩城美智子さん（こ）は、近所から友人が、県内各地から親せきが集まった。ほとんどが六十歳以上のお年寄り。通りがかった若いボランティアも心配して手を差し、総勢一千八人で半壊した新築から荷物を通路搬送していった。岩城さんは「ボランティアのありがたさが身に染み込んだ。将来、必要となれば私も参加したい」と感謝した。

地元高校生もボランティア

「国道は分かるけど細かい道はちょっと。地元の人

仮設住宅の下見に訪れた入居者や関係者（輪島市門前町）



能登半島地震最大の被災地、輪島市で二十八日、県などが建設した仮設住宅の入居が始まり、被災者は生活再建へ向けて一歩を踏み出した。やっぱり個室は落ち着くと早速、プリの刺し身を妻女とつづく男性「自分は一人住まいなのでありがたい」と引越を準備する。引越の準備は、おぼろげに、談笑する姿も。仮の新居とはいえ、即ちの時の通す住民の表情は明るく笑顔がこぼれた。【訂正に関連記事】

久々の団らん

輪島 仮設住宅入居始まる

「個室は落ち着く」

能登半島地震



仮設住宅で詳細の作業台を食卓代わりに昼食をとる大塚さん（右）
—輪島市宅田町

この日は、二十戸が完成した輪島市宅田町で十二世帯三十三人、三十戸の同市門前町で二十九世帯五十七人が入居準備を済ませ、約十世帯が同日中に仮設住宅に引っ越した。 時給師大塚昭七さん（宅田町）が、住宅の取り回しは、中能登町に住む妻女に迎えに来てもらい、避難所の西寿苑から宅田町の仮設住宅へ移った。作業の合間には、時給師の仕事で使う作業台を食卓代わりに、プリの刺し身を代わり、

全壊した家はすでに更地に、山田さんは「夏になったら施設に避難している母を呼んで一緒に生活したい」と話す。 解の仮設住宅では、小前町清水のものと、別々に暮らすきょうだい六

入りきらない家財仮置き場へ 穴水の入居予定者 穴水町で一日から始まる仮設住宅入居予定者のうち、希望者による家財道具の仮置き場への引越作業が二十八日始まった。同町比良の旧同洋中の空きスペースが提供され、初日は三世帯が運び込んだ。 仮設住宅だけでは家財を収容できないとして被災者が町に相談し、三月末に開校した同洋中が仮収容先に充てられた。 家財を運んだのは同宅が全壊した同町大町の大田勉さん（六）ら。午前九時からボランティアの町老人クラブ連合会、地元の上山町内会の住民ら約二十人が被災家財や避難先から布団、タンスなどをトラックに積み込み、旧校舎の格技場の横に入れた。

人が集まり、手分けして掃除道具など身の回りの品を運び込んだ。 握り飯をほおぼって一服しながら小塚さんは、「いつでも嵐屋に入れるから幸せやね」と笑顔を見せた。 二十九日は輪島市阿岸公民館に避難する浪見地区の住民を対象に、門前町道下で建設された仮設住宅の入居説明会が開かれる。 仮設住宅は寒冷地仕様のプレハブ式で、1日クッキングヒーター、電気温水器を備え、布団一組や食器類が用意される。 家賃は無料で入居期間は最長二年。仮設住宅は輪島市七尾市、穴水町、志賀町に計三百三十四戸が建設され、順次、入居が始まる。

能登の温泉 元気です

旅館の女将と 道場さんら 首相に復興アピール

県出身の日本料理人 道場六三郎さんや能登地方の旅館の女将（おかみ）らが十五日、首相官邸で安倍晋三首相と懇談し、能登半島地震で被災した温泉街の復興をアピールした。

道場さんは能登の温泉街でしか食べられない「道場メニュー」をつくる」とPR。地震の一月後に能登の温泉で泊まった歌手ジュディ・オングさんも同行し「料理がとてもおいしかった。

みんな笑顔に元気をもらった」と話した。法被姿の女将約二十人は「風評被害で観光客が激減した。首相にも被災を伝えたい」と笑顔で応えた。能登地方には「加賀屋」（七尾市）など全国屈指の旅館・ホテルが多いが、地震発生後、十万人が宿泊をキャンセルした。（城島建治）



安倍首相を訪問し温泉街の復興をアピールする道場六三郎さん（中）とジュディ・オングさん（右）。いずれも首相官邸で。



安倍首相を訪問した和倉・輪島温泉旅館同組合のおかみ。

平成 19年 5月 16日 (水) 北陸中日新聞朝刊 19面

仮設住宅訪れ

被災者と懇談

内閣府検討会委員ら

内閣府の被災者生活再建支援制度に関する検討会の座長を務める伊藤滋早大特命教授ら委員三人らが二十七日、能登半島地震に見舞われた輪島市



検討会委員に意見を述べる住民（輪島市門前町で）

門前町などを視察した。同支援制度では全壊世帯に最高三百万円が支給されるが、年収や住宅の解体・撤去など使途が制限されていることから、有識者が被害の実態に合うよう検討を進めているとありがたい。などこの意見が出た。視察に同行した後原一正・内閣府災害復旧・復興担当参事官は視察終了後に記者会見し、「住宅本体に使えるようにするなど使途制限の見直しも重要なテーマです」と話した。検討会では夏までに改正の方向性を定め、年内には結論をまとめる予定。（島崎勝敏）

平成 19年 5月 28日 (月) 北陸中日新聞朝刊 13面

住宅再建へ専門家派遣

能登半島地震復興基金を創設



住宅再建支援などの実施を決めた能登半島地震復興基金の設立理事会

前倒しして実施されるのは▽住宅再建組合相談・派遣事業▽農地等緊急手づくり復興支援対策▽住まい・まちづくり協議会活動支援事業の3点で、県は十月の復旧プラン策定を前に早急な対応が必要と判断した。

住宅再建相談は、被災した住宅の再建や修繕を補助する。農地支援は、災害復旧事業に該当しない農地、農道、用水路など、農地の復旧費用や、ため池が被害を受けた場合の水ポンプ設置費用の四分の三(四十万円未満)を補助する。農林漁業団体の研修、出張、シイタケ施設などの復旧費用の二分の一以内(六十万円未満)を補助する。

支援の前倒し決定

農地復旧、まちづくりも

県は二十日に創設した五百億円の能登半島地震復興基金を活用し、農地復旧や住宅再建、まちづくり協議会への支援を前倒しして実施する。このうち住宅再建支援は、専門家が住宅の柱や基礎を調べ、修復の方法や費用について無料で見積りする。このほかの支援メニューは十月をめぐりに策定する復旧プランに盛り込み、既存の制度では対応できなかった復興支援策について、きめ細かく機動的に展開していく。

被災地の地域住民で構成する「住まい・まちづくり協議会」(仮称)を設立し、専門家と協働で、まちづくり計画の作成、まちなみ保全のルールづくり、地域活性化活動の開催などを支援するため、三年間で二百万円を限度に助成する。県庁で開かれた設立理事会では、今年度の事業計画として、個人住宅の再建や自立再建が困難な人への支援をはじめ、教育、福祉、医療施設の再建、農業の経営再建、地

域コミュニティ施設の再建、地域資源の再生、活用などを挙げた。基金を運営する財団法人の理事長に就いた谷本正憲知事は、記者団に「復興プランは被災者の生活や農林水産業、地域

の相談窓口を設ける。農地などの復旧支援は、災害復旧事業に該当しない農地、農道、用水路など、農地の復旧費用や、ため池が被害を受けた場合の水ポンプ設置費用の四分の三(四十万円未満)を補助する。農林漁業団体の研修、出張、シイタケ施設などの復旧費用の二分の一以内(六十万円未満)を補助する。

平成19年8月21日(火)北國新聞朝刊5面

能登半島地震復興へ輪島で開催

石川の観光のあり方に十人で、能登の自然や文化を生かした観光や、県観光創生会議は二十三日、初めて輪島市で開催される。これまで市内どう、二十三日は輪島大祭の期間中であり、キリコ金沢市だけで開催されていたが、能登半島地震の復興と風評被害防止にむけて観光復興策を協議するため、輪島市で開催することにした。出席予定者は日本観光協会の中村会長ら。

アメリカなど七カ国の新聞、通信社など十人が輪島大祭や朝市、千枚田などを取材して自らのメディアで報道してもらい、石川の認知度向上を図る。

平成19年7月13日(金)北國新聞朝刊2面

被災者生活再建支援制度「魂が入っていない」 谷本 制度見直し訴える



全国知事会議出席し、谷本知事の本音を述べた

十二日に熊本市内で始まった全国知事会議の中で、谷本知事は見直しを訴える緊急要望を提案した。谷本知事は見直しを訴える緊急要望を提案した。谷本知事は見直しを訴える緊急要望を提案した。

では、被災者生活再建支援制度の見直しに関する緊急要望が緊急通り承認された。協議の中で、谷本正憲知事は能登半島地震の被災者として「支援制度の自身は被災者の生活再建支援には極めて不十分であり、補填すれば、制度はあっても魂が入っていない」と制度見直しの必要性を訴えた。【一面に本記】会議では、全国知事会議で、谷本知事は被災者生活再建支援制度の見直しを訴える緊急要望を提案した。谷本知事は見直しを訴える緊急要望を提案した。

市町村合併に関連し、議野放談事務次官との意見交換で谷本知事は石川県では四十一市町村が十九市町村になったことが年輪や所得、期間を紹介しながら「合併市町にはこんなはずではなかったという声がある」と述べ、第二期合併を進めていく前に国はこれまでの合併を経験する必要のあるとの認識を示した。

震災1年の復興行事

プロジェクトチーム設置

県本部会議

県能登半島地震復旧・復興本部会議は三日、県庁で開かれ、被災地の復旧、復興に向けた施策を総合的、網羅的に盛り込んだ「能登半島地震復興プラン」（第一次計画）を決定した。震災を総括し、教訓を生かすため、震災後一年を目途に復興

関連行事を実施することし、十一月中に復興関連を定め、県企画振興部震災復興支援室にプロジェクトチームを設置した。チームは部局横断的に課長級で構成

復興プランを決定



行事の内容や時期、実行委員会の構成などを検討する。会議ではボランティアとの交流や誘客イベント、防災や文化財保護のシンポジウム、心のケア研修会、商店街との連携事業などが例示され、週内に各部局から案を持ち寄ることとした。復興本部長の谷本正憲

再建モデル住宅 早ければ3月完成

会議ではこのほか、被災プランとの調整を図る必要が出てくるため、法案の審議状況を見極めていくことが確認された。県の再建モデル住宅「能登ふるさと住宅」は、早ければ来年三月に完成することが報告された。

知事は記者団に「来年三月二十五日の一日だけの行事に終わらせるのではなく、ある程度の期間を取って、いろんな行事を渡状的にやればいい」と語り、被災地一帯で数日以上にわたって行事を展開することで地震からの復興をPRしていく意向を示した。

臨機応変に手直し

プランで知事

住宅再建支援をはじめとする百八件の事業を盛り込んだ復興プランについて、谷本知事は「被災者のニーズをできるだけ組み入れたプランになったが、復興の作業が進む中で生まれる新たなニーズに対しても、随時追加し、臨機応変に手直ししていく」と述べた。

参院で与野党が過半数を確保した「ねじれ国会」で対決する自党と民主は、「被災者救済」の一点で難局打開に意を寄せた。「実質的」で歩み寄り、被災者生活再建支援法の改正案を一本化することで合意した六日、交渉を進めた議員

からは「画期的な改善だ」との声も。側面を援してきた関係国会議員も「地元への思いに応えられた」などと後援促進へ期待を寄せた。

【一面に本記】

自民「地元には満額回答」 民主「能登対象意義ある」

最後まで譲歩が難航し「与野党を軸でい」と大 日午前、参院で開いた実 じやないかと与野党が、法律に遡及と掛けこ いたのは遡及の扱いだっ 幅に譲歩する一方で、選 務者レベルの会合でも、合意を巡ったのに対し、反発し、ぎりぎりまで激 した。関係者によると、小沢 及び譲れないと主張。六「これ特例」は実質的と民主議員からは「それな しい議論が交わされた。 支援法をめぐって 与野党が激突、民主 党が参院に改正案を 提出する異例の事態とな った。双方がメンツにこ だわり協議が決裂する ば、世論の批判を受ける のは明白で、国対幹部間 では早い段階から「被災 者救済という趣旨からし ても、歩み寄って成立さ せるべきだ」との考えで 一致していたという。六 日夕に行われた合意発表 の共同会見では「商業を 出して議論し、成立させ るという立法府のあるべ き姿が示された」として、 与野党協議のモデルケ ースになることを議員 側も望んでいた。

被災者支援法合意案「実質的」で決着

被災者生活再建支援法改正案の主な内容

支給方法	現行	与党・民主合意案
	必要額を積み上げる方式	住宅の再建方法に応じた定額方式
支給限度額	全額 最高300万円 うち生活期間前 最高100万円 居住期間後 最高200万円	最高300万円 100万円 + (※)
	大規模半壊 最高100万円 (居住関係費だけ)	最高250万円 50万円 +
	大規模半壊 以外の半壊	支給なし
対象経費	世帯は家財購入費、引っ越し代、住宅の解体撤去費、ローン金利などに限定	世帯は限定せず
支給要件	年収800万円以下で、世帯主が45歳以上の世帯は700万円以下、世帯主が90歳以上の世帯は800万円以下	年齢・年収要件撤廃
過去の災害への適用	—	今年発生の中越前中越沖地震、台風11号と前編、台風12号の被災者も改正後の制度を利用できる

※敷地が被害を受けて住宅を解体する場合も全額の支給対象に追加

被災者救済で難局打開 「ねじれ国会」で画期的

「ねじれ国会」で画期的な改善だ」との声も。側面を援してきた関係国会議員も「地元への思いに応えられた」などと後援促進へ期待を寄せた。

「ベストな結果 被災者に朗報」

能登半島地震への実質的な遡及も認められ、被災者の知事として面目を保った谷本正憲知事は六日、「要望がほぼ認められ、ベストな結果。被災者にとって大変な朗報だ」と安堵の表情で記者団に語った。写真見。

谷本知事や県幹部は、ねじれ国会の中で与野党と民主の協議の行方に不安を募らせていた。それだけに谷本知事は「被災者の立場に立ち、小異を捨てて大同につけてもらった。担当大臣や地元国会議員の皆さんらの真摯な努力に心から感謝する」と強調した。

全国知事会には遡及には慎重な立場であり、副会長を務める谷本知事の立場は微妙であったとされる。それでもあえて谷本知事は先月十二日、「被害者は現在進行形」として県議会に提案し、議員に遡及したほか、県選出国会議員に遡及適用を直ぐで要望し、六日夕、それぞれに電話で謝意を伝えた。と付け加えた。



「ベストな結果 被災者に朗報」

「法案提出後、能登、新潟の地方の方々からたくさん要望をいただいた。それぞれの方々にも納得の行く結果が出せると思う」

合意発表の共同会見で民主の高橋千秋議員は、こう語って合意に至った経緯を説明した。谷本知事が県防衛担当相らと会ったことに対し、自民党の県選出国会議員の一部には「永田町で寄り添りの協議をしている時に、知事が前を突っ込むべきではない」との声もあった。しかし、六日、合意案を受けて「結果的に知事の直談判は大正解だった。被災地のトップの必死な姿を自野党の国会議員にも理解してもらったはずだ」（知事側）と、今回は行動派知事の作戦が奏功したと見る向きは多い。

半壊認められず残念

輪島市長 輪島市長は「被災者にとっては何よりの朗報だ」とコメント。ただ、被災した自治体が求めていた「支給対象の大規模半壊から半壊以上への拡大」が認められず、「非常に残念でならない」と付け加えた。

「最大限に頑張った」と述べ、委員長と「と述べ、委員長と「最大限に頑張った」と述べ、委員長と「と述べ、委員長と」

自民党議員も「実質的」で決着を望んでいたが、これで何とか地元には満足の様子。党本部などに遡及を要望していた自民県連の会長で、被災地も法改正を機に復興を前進させられると強調した。

能登半島地震も救済

改正被災者支援法が成立

今国会初の法律

大規模自然災害の被災者に対する現金支給を拡充する改正被災者生活再建支援法が九日の衆議院本会議で全会一致で可決、成立した。自民、公明両党と民主党の共同提出法案で、今国会での法律成立は初めて。九日の参院本会議で全会一致で可決、通過し、直ちに衆院に送付、緊急上程され

た。【4面に関連記事】改正法は今年発生した能登半島地震、新潟県中越沖地震、台風1号、12号の四災害の被災者も利用できる特別措置を付則に明記。支給上限額は現行法と同じ三百万円に据え置いたが、使途を限定せず、住宅の再建方法に

による支給制限も撤廃した。使い勝手がよくなるよう配慮した。衆参の与野党勢力が逆転した「ねじれ国会」として九月十日に召集されたことについて、「(与野党で)お互いに話し合っ

て譲るべきところは譲る。そして、より良い法律に仕立てることが大事だ。協議的、理性的な国会運営ができればとてもいい」と評価した。

平成19年11月10日(土)北國新聞朝刊1面

被災者支援法

改正地域に生かせ

県が自治体担当者説明会



能登半島地震にも適用されたのに伴い、石川県は十七日、被災地の穴水町で自治体担当者の説明会を開いた。改正法では住宅本体への支援を最大三百万円まで拡充しているほか、年取や高齢の被災者を対象とした被災者生活再建支援法が十四日に施行

会を開いた。改正法では住宅本体への支援を最大三百万円まで拡充しているほか、年取や高齢の被災者を対象とした被災者生活再建支援法が十四日に施行

石川県の職員から改正被災者生活支援法の説明を受ける自治体担当者—17日午前、同県穴水町で

（穴水通信・島崎勝也）

改正被災者支援法成立

改正被災者再建支援法が9日、成立した。阪神大震災を機に98年に同法が新設されたから10年目。被災者が願っていた住宅再建への支給が可能

見舞金名目で決着

改正法が国会会期の延長と同時に成立したのは、参院で野党が過半数を占める「ねじれ国会」で多くの法案審議が滞るなか、「対立の末に成果なしでは批判を招く」との一点で与野党が一致したためだ。9月10日の召集から2カ月で成立した法律はこの1本のみ。最終的には公明、民主両党が主導し、懸案となっていた中越沖地震などに沿って適用する特例措置に決着をつけた。

になり、年収や年齢による支給要件も撤廃された。3月の能登半島地震、7月の新潟県中越沖地震など4災害も特例として支援対象とされた。「ねじれ国会」で第1号で成立した同法。そのいきさつと、被災者の複雑な思い、今後の課題を検証する。

「なぜそんなにこだわっているのか」。10月22日の参院の自民、民主両党国対関係者の打ち合わせで、自民党側が声を張り上げた。自民党が与党案・民主案の修正協議を求めたが、民主党が「党の主張が伝わらなくなる」と拒んだためだ。かたくなな姿勢は、政府から委

協を引き出す狙いがあった。だが、同30日の党首会談を境に、生活関連での歩み寄りが始まった。民主の菅直人代表代行は「1日も前進しない」と発言。一番に浮上したのが支援法だった。2日の与党・民主協議で、与

党は今年からの適用を主張する民主に4災害を対象に加える特例措置を提示、大枠で合意した。ここまでは制度拡大に慎重な財務省も想定の外に困った。最終的な詰めを任された公明党の赤羽

一嘉元副財務相、民主党の松本剛明前政調会長は2日夜の協議で、現行法が500万円以下とする要件の撤廃でも合意した。行政の個人への支援策で、年収要件を備えていない制度はほとんどない。財務省は5日夜にこの合意に気づき「例外は好ましくない」と巻き返した。与党と民主党は6日に正式合意した。

財務省は当初、支援金の使途を住宅本体の再建にも拡大する案に対し「個人資産の形成に公金を使うのはおかしい」と反対姿勢をとってきた。一転して受け入れたの

は、支援金の名目が「見舞金」と位置づけられたため、「個人資産の形成に公金投入することにほならない」と判断した。【竹島一登、須佐美玲子】

補助金（支援金の2分の1）を原資としている。支援対象は「一定規模以上の自然災害」。現行の施行令では全壊世帯が▽市区町村で10世帯以上▽都道府県で100世帯以上▽上などの条件が付けられる。特定4災害でも▽中越沖地震は新潟県▽能登半島地震は石川県▽台風11号は沖縄県久米島町、北秋田市▽台風12号が沖縄県竹富町——に適用が限られる。

だが、これではまとまった被害に遭った地域外の居住者は支援を受けられないことになり、局所的な全壊世帯は対象外となる。内閣府災害復旧復興担当は「小規模被害の場合には市町村で対応するのが基本」と説明する。自治体ごとに支援に格差が生じるケースも。04年10月の台風23号では、全壊世帯に京都府独自の上乗せ分300万円と合わせ最大計600万円が支出された舞鶴市に対し、香川県の旧満濃町（現まんろう町）では補助ゼロ。全壊家屋が1棟だったため支援法適用の対象外となった。まんろう町はこの要件が残る限り、同じ災害があれば地域差が生じる。平等な取り組みを望みたい」と話している。【鈴木梢、田倉直彦】

クロアツプ

2007

現行制度は、被害認定から支援金支給までの事務手続きや必要書類が煩雑で、被災者から「使い勝手が悪い」と指摘され

支援金地域差も

ていた。改正法では、細かな手続きがなくても一定額が支払われるよう見直された。被災者の申請窓口となる市町村の負担

を軽減する狙いもある。支援金は、47都道府県が財団法人・都道府県会館に拠出した基金600億円と運用益、国からの

だが、これではまとまった被害に遭った地域外の居住者は支援を受けられないことになり、局所的な全壊世帯は対象外となる。内閣府災害復旧復興担当は「小規模被害の場合には市町村で対応するのが基本」と説明する。自治体ごとに支援に格差が生じるケースも。04年10月の台風23号では、全壊世帯に京都府独自の

平成19年11月10日(土) 毎日新聞朝刊3面

門前・深見住民が完全帰宅



自宅で楽しむ川端夫婦
午後5時45分、輪島市門前町深見

三月二十五日の能登半島地震以来、全三十五世帯が仮設住宅などで避難生活を送っていた輪島市門前町深見地区の住民の大半が二十五日、集落につながる市道の通行規制の全面解除を受け、完全帰宅を果たした。土砂崩れで孤立し、船などで避難してから八カ月、不便な生活を強いられてきた住民は久しぶりのわが家で夕食を楽しんだ。「正月は子どもや孫とゆつくり過ごしたい」のどかな港町の住民に、つらさの時間が戻った。【下面に関連記事】

「いろいろ世話になった。元気でね」。三十五世帯八十三人の帰宅を祝福するかのような青空が広がったこの日、深見地区住民は仮設住宅で働き合った他地区の入居者と涙ながらに別れを惜しんだ。午前九時ごろ、全

8カ月ぶり「正月はゆつくり」

早速、冬支度に汗

笑顔 わが家が一番



神社拝殿の雪固いに汗を流す住民
—25日午前10時、輪島市門前町深見の輪神社

員で記念撮影した後、布のように「近くで凍かっ」と口癖だった河内守で次々と出発した。向ふと車を走らせた。白と黒の道影が繰り返り、土砂崩れで通行不能となった市道は復旧工事が進み、昼間は一時的に通行できたものの、住民は八カ月間の苦勞と完全帰宅の喜びをかみしめるかに、婦も笑みを見せた。

早速、冬支度に汗

「早く深見に帰りたい」が口癖だった河内守と相好を崩した。板谷弘区長も三十一人は、集落裏山の輪神社の雪固い作業に動んだ。一めだたい日にけがせんよう、しっかり。にぎやかな声が飛び交う中、住民は協力して拝殿や本殿前に竹を組んでビニールシートで覆い、冬支度を整えた。板谷区長は「こんで正月を迎えられる」と顔をほころばせた。

「漁などもしてみたい」と声を弾ませた。美しい夕日が外浦に沈むころ、家々の明かりがともり、各世帯で食卓を囲んで笑顔が広がった。



「世話になった、元気で」仮設仲間と涙の別れ

仮設住宅前で記念撮影をする深見地区住民
—午前8時50分



他地区の仮設住宅住民と別れを惜しむ深見地区住民
—午前8時55分、輪島市門前町道下

川崎春雄さんで、きしさんで夫は、こたつを足元を伸ばして大画面テレビで好きな大相撲中継を見た後、煮物や魚料理をいただくのが楽しみや、に舌鼓を打ち、「一緒なと笑顔を浮かべた。

門前で震度5弱



被害状況などを確認する職員
—26日午前5時、輪島市役所

被害の報告口なし

能登半島地震の余震か

二十六日午前四時三十分ごろ、能登半島地震の余震とみられる地震があり、輪島市門前町走出で震度5弱を観測した。県内で震度5弱以上を観測したのは、昨年七月十六日の新潟県中越沖地震以来となる。県内では建物や人的な被害は確認されていない。



気象庁の発表では、震の深さは約二〇キロ、マグニチュードは4.8と推定される。午前六時五分に輪島市で最大震度2、同七時三十分同市で震度1を観測した。

気象庁では「今後一日程度は震度1ほどの揺れが数回あるかもしれないが、強い揺れが起きる可能性は小さい」として

いる。北陸電力によると、七尾大田火力発電所は通常通り稼働している。志賀原子力発電所も通常通り稼働している。志賀原子力発電所は定期検査のため停止中、被害は確認されていない。県内での停電被害はない。

能登半島地震で八カ所が閉鎖された能登有料道路も通行止めはなく、能登空港も滑走路などに被害はないという。JR西日本金沢支社によると、七尾発金沢行きの七尾線始発列車が安全確認のために一時停車したことで約十七分の遅れが生じたが、そのほかの列車は通常通り運行されている。

に修を行われ、病院で手術を受けたが胸市では、けが人には含めていない。各地の震度は以下の通り。

県連絡員会議

「迅速対応できた」

発生1時間22分で開催

石川県は、発生から一時間二十二分後の二十六日午前五時五十分から日午前五時五十分から「災害対策本部連絡員会議」を開いた。各部署の二十五人が出席し、被害状況を確認し、対応について協議した。県は「震度4または5弱」の揺れがあった場合、各部署主管課の総括補佐による連絡員会議を開催すると定めている。この日の対応について、「Aコープもんせん」で商品が下落した。

- 石川県：震度5弱
- 福井県：震度4
- 富山県：震度4
- 新潟県：震度4
- 山形県：震度4
- 秋田県：震度4
- 岩手県：震度4
- 宮城県：震度4
- 福島県：震度4
- 茨城県：震度4
- 栃木県：震度4
- 群馬県：震度4
- 埼玉県：震度4
- 千葉県：震度4
- 東京都：震度4
- 神奈川県：震度4
- 静岡県：震度4
- 愛知県：震度4
- 岐阜県：震度4
- 長野県：震度4
- 山梨県：震度4
- 静岡県：震度4
- 愛知県：震度4
- 岐阜県：震度4
- 長野県：震度4
- 山梨県：震度4

復旧から本格復興へ

輪島でシンポ

絆守り、郷土再生に決意



約1200人が復興を誓ったシンポジウム
—輪島市文化会館

輪島市文化会館でのシンポジウムは「復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする」をテーマに、約1200人が参加した。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。

このシンポジウムは、復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。

平成20年3月26日(水)北國新聞朝刊38面

能登の温もり誇りに

発生時刻に黙祷

発生時刻に黙祷。輪島市時宗町で行われた復興祈念式では、物産に誇りをもち、絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。

あれから一年

「絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。」

素朴な人情に涙と笑顔

田中さん「温かい支え、感謝」

昨年十月に発生した地震で、田中さんの生活は大きく変わりました。素朴な人情に涙と笑顔。田中さん「温かい支え、感謝」。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。



復興祈念式に参加した田中さん(左)と関係者(中)と関係者(右)。



能登の花ヨメ」上映会



能登の花ヨメ」上映会。田中さん「温かい支え、感謝」。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。復興の絆を築き、郷土再生の決意を新たにする。

平成20年3月26日(水)北國新聞朝刊39面

震災の救援、復旧支援

333個人・団体に感謝状

知事贈呈

県は二十五日、県庁で被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支



援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

援が被災地に元気を与えて能登半島地震の救援、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

災害対策本部を解散

誘客區万人増へ復興支援強化

地震復興本部

県は六日、能登半島町も同日に解散。県は、本部長の谷本正憲知事の発議で設置した復興支援本部をさらに強化。被災地復興への大きな力を頂いた。今後、被災地に元気を与え、復興の勇気を与え、復旧、復興に支援、てくれた」と謝意を示した。協力した団体、個人に、二十五日付で感謝状を送る。谷本正憲知事が「物心両面の支

平成20年4月26日(土)北國新聞朝刊4面

する準備を指示した。百八十八件、四億二百万円の〇七年の観光収入で、三百九十五件、約千九百四十七万人。住宅再建については、能登地域は百六十六万人。地元意向調査では80%が自力再建を希望。被災者から提供を受けた土地に戸建て公営住宅四戸を建設する。

各部局長が復旧、復興の進捗を約二百五十棟報告した。復興基金は夏までに意思を申請が五決定する。公営住宅には輪島市の四十九、穴水町の十七世帯が入居を希望。同市は被災者から提供を受けた土地に戸建て公営住宅四戸を建設する。

秒針

◆本部会議 落した写真の最後に、という。緊急対策本部について、余震も規模、回数が減少し、総括し、大きな揺れの確率は極く、復

「夏にジャンプ」なるか

めて低い役割は果たした。県へ向けて大きく軸足を移すと報告すると、谷本知事は「解散」を宣言。記者団に「これで復旧作業が一段、進めたのは、風評被害対策



だった。7月から開幕する能登ふるさと博、加賀四瀨博での誘客に期待感を示し「今年の春がホット、ゴールデンウィークがステップ、そして夏にジャンプで、客足を地震前の状況に取り戻したい」と強調。災害本部の「看板」はなくなっても、肩の荷が下りたとはいかないよう。

平成20年6月7日(土)北國新聞朝刊4面

県防災訓練に住民2500人

化。過去最多の約2500人の住民が参加して、町会などの自主防災組織による倒壊家屋からの救出やボランティアの運用訓練、安否確認などを行った。

昨年3月の能登半島地震の教訓を初めて反映した県防災総合訓練が7日、羽咋市内であった。能登半島地震では地域住民の連携が力を発揮したことから、住民参加型の訓練を強

能登半島地震の教訓生かせ 地域の防災力強化狙う



県震災対策専門委員会が2月にまとめた施策大綱では、安否確認や避難所運営に、民生委員や地区ごとの住民組織が大きな役割を果

たしたことを指摘。住民でつくる自主防災組織をさらに強化・育成しようとして、今回の訓練に具体策を盛り込んだ。県危機対策課の高下

①被災者のニーズをまとめ、ボランティアの配置などについて話し合う住民ら＝羽咋市中央町
②倒壊した柱をジャッキで持ち上げ、被災者救出の訓練をする住民たち＝同市南中央町



訓練は、県西方沖を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生し、多数の家屋が倒壊して死者・負傷者が出たとの想定で実施。主会場の同市南中央町の旧羽咋織維跡地には、消防や警察、自衛隊、自治体の担当者が加えて住民約140人が集まった。

柱の下に被災者に見立てた人形を置き、倒壊家屋を再現。今回初めて住民による救助訓練が行われ、各町会からの参加者がジャッキを使って救い出し、毛布と竹の担架で搬送する訓練を繰り返した。近くに住む後山員衛さん(86)は「救助、搬送のどちらかに人数が偏らないよう瞬時に役割分担するのが難しい。一度経験しておけば、あわてなくてすむと思う」。

同市中央町の羽咋小学校には住民や児童約700人が集合。住民が中心となったボランティア運用訓練を行った。

能登半島地震ではボランティアの配置や被災者のニーズ把握に手間取る例もあったため、住民自ら受付係になり、登録や行き先の指示などをした。同市千原浜町の主婦高沢久美子さん(60)は「いざ大勢の人間に囲まれると混乱してしまっただが、今回で自信が持てました」と話した。

災害住宅10戸が完成

輪島・門前 竣工式 来月10日から入居



輪島市が同市門前町
道下の松風白団地で建
設を進めていた能登
半島地震の災害公営
住宅10戸が完成し、二
十五日、入居予定者や
関係者約五十人が出席
して竣工式が行われ
た。同町道下、朝の仮
設住宅の十世帯十四人
が三月十日以降、入居
する。
完成した住宅は木造
平屋建て、二戸一棟型
で、1DK七戸、2DK
K三戸、互に公設トイレ、

平成21年2月26日(木)北國新聞朝刊29面

下島板橋町の伝統的な

外観で、各棟間に緊急
避難路となる共用道路
を配置し、緊急通報装
置なども備えている。
式では、郷文統市長
が「(住居など)人的
な復興を絡めることが
重要で、被災者などの置
き場所を確保した。

輪島市は松風白団地
設住宅の退去期限は四
と宅田町、マリシタウ
ンク、横地町で計四十五
戸、門前町内の三戸所
有地四カ所で災害公営
住宅を整備しており、
三月下旬まで、進め完
成する予定という。仮

輪島深見の避難所

復興基金で整備支援 知事が意向 場所、経路限られる

県議会は四日、本会議を再開し、宮下正博氏(白民)の一般質問に対し、谷本正雄知事は能登半島地震で被災した輪島市門前町深見地区の住民が進める一時避難所の整備について、復興基金を使い建設費を支援する意向を示した。

県議会 一般質問

宮下氏は深見地区の「は強い地域のあすなが
住民や仮設住宅での生
活を強いられた被災者
が避難に訪れていると
紹介。同地区が海と山
に囲まれ、避難場所や
避難経路が限られると
し、「住民の安全・安
心を確保できる施設が
必要だ」と県の支援を
求めた。

知事は深見地区「ひ
いて避難路が十分でな
く、他にも避難所を余
ななく確保した」と今
も詳細に記憶に残る。
知事に避難ができたの

は、被災者や被災地を
支援する復興基金の設
置目的に合致する」と
の返答に暫工したい考
えがあった。

平成21年3月5日(木)北國新聞朝刊5面

平成19年
能登半島地震災害記録誌

【発行日】 平成21年3月25日

【発行】 石川県

〒920-8580

石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1111 (代表)

URL <http://www.pref.ishikawa.jp/>

【編集】 石川県危機管理監室

TEL 076-225-1482

FAX 076-225-1484
